

2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表2-1 44項目（施策）の満足度ランキング

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	78.6	➡	
2位	(1位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	77.3	➡	
3位	(2位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	76.7	➡	
4位	(14位)	横断的取組	健康管理	75.1	⬆	△
5位	(10位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	74.9	➡	
6位	(4位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	74.8	➡	
7位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.5	➡	
8位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	74.4	➡	
9位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	73.9	➡	
10位	(12位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	73.5	➡	
11位	(15位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	73.3	➡	
12位	(16位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	72.9	➡	
13位	(38位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	72.7	⬆	△
13位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	72.7	⬆	△
13位	(9位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	72.7	➡	
16位	(13位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	72.3	➡	
17位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	72.1	➡	
18位	(31位)	横断的取組	風評の払しょく	72.0	⬆	△
19位	(18位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	71.9	➡	
20位	(27位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	70.9	➡	
21位	(20位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	70.8	➡	
22位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	70.7	➡	
23位	(21位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	➡	
24位	(26位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	70.0	➡	
25位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	69.6	⬆	△
25位	(22位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	69.6	➡	
25位	(17位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.6	➡	
28位	(11位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	69.3	⬆	▼
29位	(23位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	69.2	➡	
30位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	69.0	➡	
31位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	68.7	➡	
31位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	68.7	⬆	▼
33位	(37位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	68.5	➡	
34位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	68.3	➡	
35位	(30位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	67.0	➡	
36位	(32位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	66.2	➡	
37位	(33位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	65.8	➡	
38位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	65.4	➡	
39位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	64.8	➡	
40位	(41位)	II. 交流・観光の未来	観光	64.7	➡	
40位	(27位)	基盤的取組	行政経営	64.7	⬆	▼
42位	(39位)	基盤的取組	SDGs	64.0	➡	
43位	(43位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	63.6	➡	
44位	(44位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	63.2	➡	

平均得点70.4点

平均より高い



平均より低い



【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表2-1参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」175人、「どちらかといえばよい」463人、
「どちらかといえば不満」138人、「不満」48人、「わからない」98人ですと、

$$\frac{175 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 463 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 138 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 48 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 98 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{824 \text{ 人}}$$

≒78.6

※平均得点=78.6点となります。

※2019年度より「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から12年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

「自然環境」については、猪苗代湖を含む「磐梯朝日国立公園」をはじめ、阿武隈山地、奥羽山脈など、緑豊かな自然に恵まれており、生物多様性や森林、農地の保全のほか、公園・緑地の整備など、自然と共生できるまちづくりに取り組んでいることが、高い満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「健康管理」「子育て」「住環境」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「健康管理」では、内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、外部被ばくの測定、健康相談等を実施し、原発事故後の放射線に対する健康不安の解消に努め、市民の長期的な健康管理を図っています。

「子育て」では、認可保育所の整備を積極的に進め、保育所等の待機児童の解消に努めるとともに、ニコニコこども館を中心として東西南北に設置している4箇所地域子育て支援センターや元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）、市内4か所の子どもの遊び場などにおいて、育児相談や子育てに関する情報提供、親同士・子ども同士の交流の場の提供を行うなど、安心して産み育てられる環境整備を進めています。

「住環境」では、はじめに『公園』について、日常の維持管理とともに、利用者のニーズに合わせた施設の改修や整備を進めています。次に『生活道路』では、地元からの要望を的確に把握し、高齢者や障がい者等の円滑な移動に配慮するとともに、生活環境の利便性や安全性の向上のため効率的に改良・舗装工事を進めています。次に『上下水道』では、水道水の安全性を確保するため、適切な水質管理を行うとともに、給水管等老朽化した施設を計画的かつ効率的に更新しています。また、浸水被害の軽減を図るため、「市ゲリラ豪雨対策9年プラン」に基づき、麓山調整池などの雨水貯留施設を整備しています。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「横断的取組」の73.3点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の72.8点、「学び育む子どもたちの未来」の71.4点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	73.3
2位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	72.8
3位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.4
4位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	70.6
5位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	69.4
6位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.2
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	66.0

過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
2012	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
2011	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表2-4 44項目（施策）の重要度ランキング

平均割合9.7%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	31.4	⇒	
2位	(11位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	29.7	⇒	
3位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	26.3	⇒	
4位	(2位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	25.6	⇒	
5位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	24.1	⇒	
6位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	20.2	⇒	
7位	(7位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	19.3	⇒	
8位	(6位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	16.4	⇒	
9位	(10位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	15.6	⇒	
10位	(5位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	12.9	⇒	
11位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	12.5	⇒	
12位	(8位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	11.7	⇒	
13位	(14位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	11.4	⇒	
14位	(23位)	横断的取組	健康管理	10.1	⇒	
15位	(13位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	8.6	⇒	
16位	(16位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	8.4	⇒	
16位	(32位)	基盤的取組	行政経営	8.4	↑	△
18位	(19位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.1	⇒	
19位	(21位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	7.6	⇒	
20位	(17位)	横断的取組	風評の払しょく	7.5	⇒	
21位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	7.3	⇒	
22位	(21位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	7.2	⇒	
22位	(28位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.2	⇒	
24位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	7.0	⇒	
25位	(23位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	6.6	⇒	
25位	(27位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.6	⇒	
25位	(20位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	6.6	⇒	
28位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	6.4	⇒	
29位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	6.1	⇒	
30位	(37位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	5.8	⇒	
31位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.3	⇒	
32位	(32位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	5.0	⇒	
32位	(30位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	4.5	⇒	
34位	(40位)	基盤的取組	SDGs	4.4	⇒	
35位	(26位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	4.0	⇒	
36位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	3.6	⇒	
37位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.4	⇒	
38位	(29位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	3.3	⇒	
39位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	2.6	⇒	
40位	(38位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.7	⇒	
41位	(39位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	1.5	⇒	
41位	(43位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.5	⇒	
43位	(44位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.4	⇒	
44位	(41位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	1.3	⇒	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※2：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「雇用・就労」294人ですと、

$294 \text{ 人} \div 935 \text{ 人} \times 100\% \doteq 31.4$

※平均割合（回答率）=31.4%となります。

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「防災」「学校教育」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「防災」「学校教育」が上位となっています。

「雇用・就労」については、2019年から国が継続的に推進している「働き方改革」による社会構造への影響や近年の大雨等の自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域産業への影響から、昨年度に引き続き関心度及び重要度の高さが持続しているものと考えられます。

「防災」については今年度、順位を大きく上げ、とりわけ重要度が高まっています。また、「10年間の重要度上位3項目」において、「学校教育」は2013年度から2017年度まで毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「産業創出・企業誘致」「計画的な都市づくり」です。

「産業創出・企業誘致」については、新型コロナウイルスの流行等の影響によって、情報通信・医療関連等の分野を中心に社会環境の変化に対応するための新産業創出や地元での雇用機会拡大等につながる企業誘致への市民の期待が高まったためと考えられます。

「計画的な都市づくり」では、近年多発する水害被害等への懸念から、安全安心なまちづくりに向けた取り組みや、こおりやま広域圏の玄関口として魅力的なまちへの期待が高まりつつあるものと考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」は重要度が最も高く、14.7%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

表 2-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	14.7
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	13.9
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	10.1
4位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	8.7
5位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	7.8
6位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	7.1
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	5.0

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

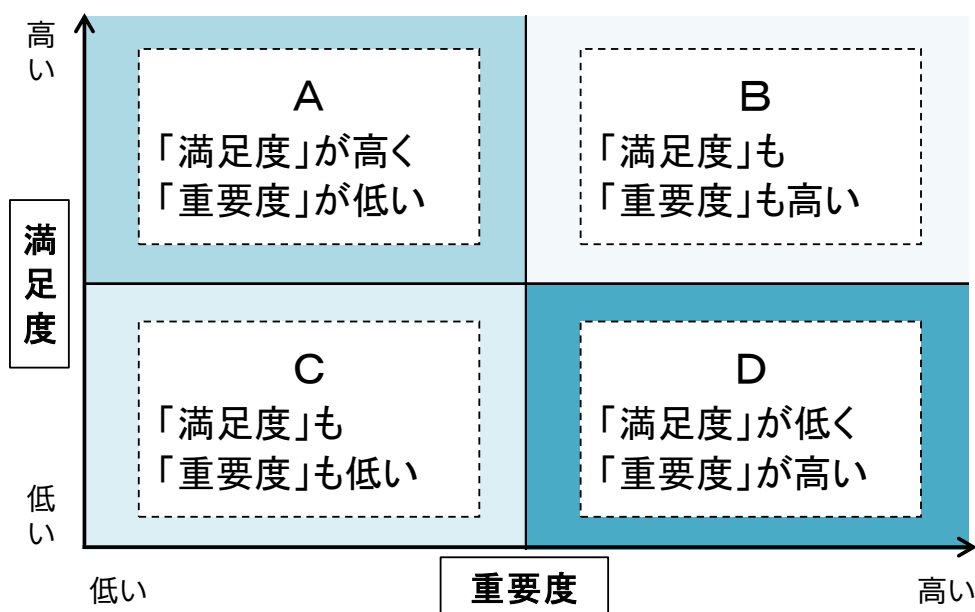
表 2-6 10年間の重要度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
2012	医療体制	生活環境	保健予防体制
2011	生活環境	医療体制	ごみ対策

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出20頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出24頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

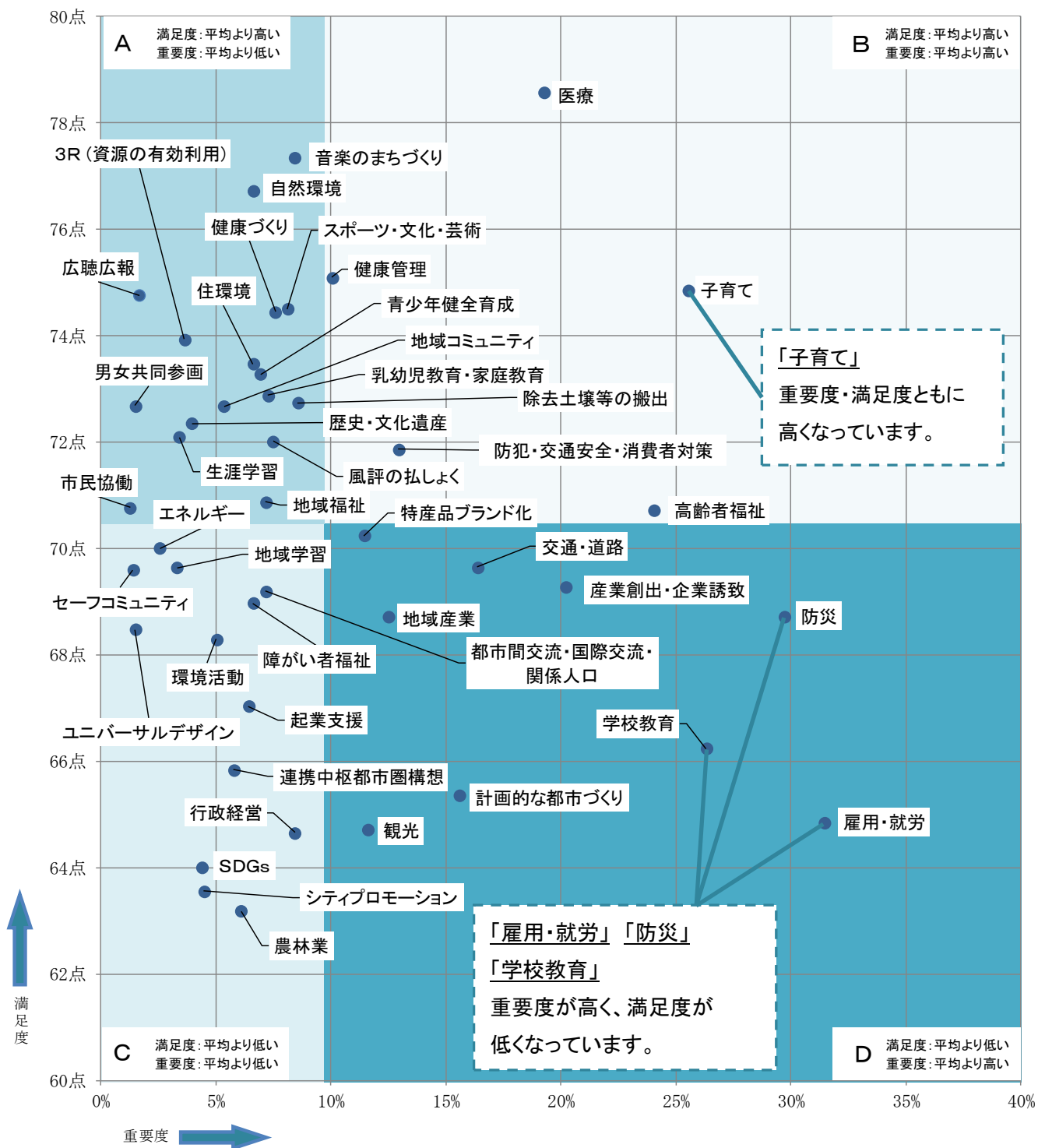
重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図2-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）



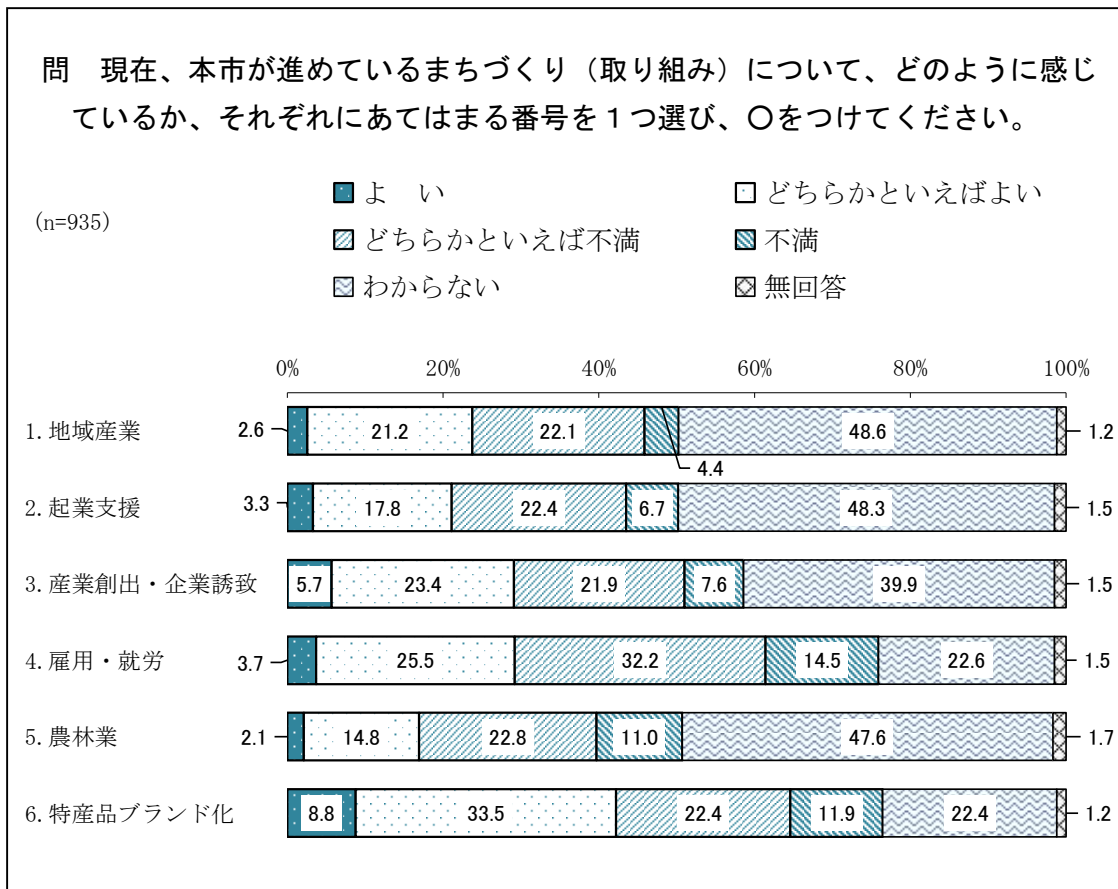
「雇用・就労」「防災」「学校教育」に関して

優先的な施策の改善が求められている

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「防災」「学校教育」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（42.3%）でした。以下、『4. 雇用・就労』（29.2%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（46.7%）でした。以下、『6. 特産品ブランド化』（34.3%）、『5. 農林業』（33.8%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』、『4. 雇用・就労』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『1. 地域産業』（48.6%）と『2. 起業支援』（48.3%）で約半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

市特産品の「鯉」や郡山産米「あさか舞」、果樹農業の6次産業化による郡山産ワインの誕生など、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、市民への浸透や全国的な知名度の獲得を目指した、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-2 参照）

平均得点をみると、『6. 特産品ブランド化』が70.2点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(63.2点)でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました。(表2-7参照)

図2-2 産業・仕事の未来への満足度<平均得点>(全体)

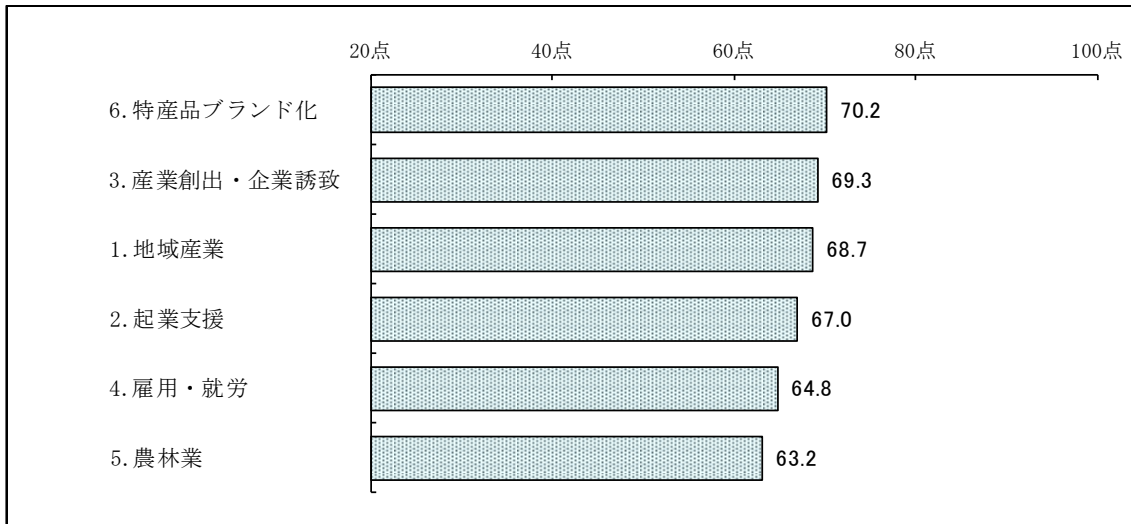
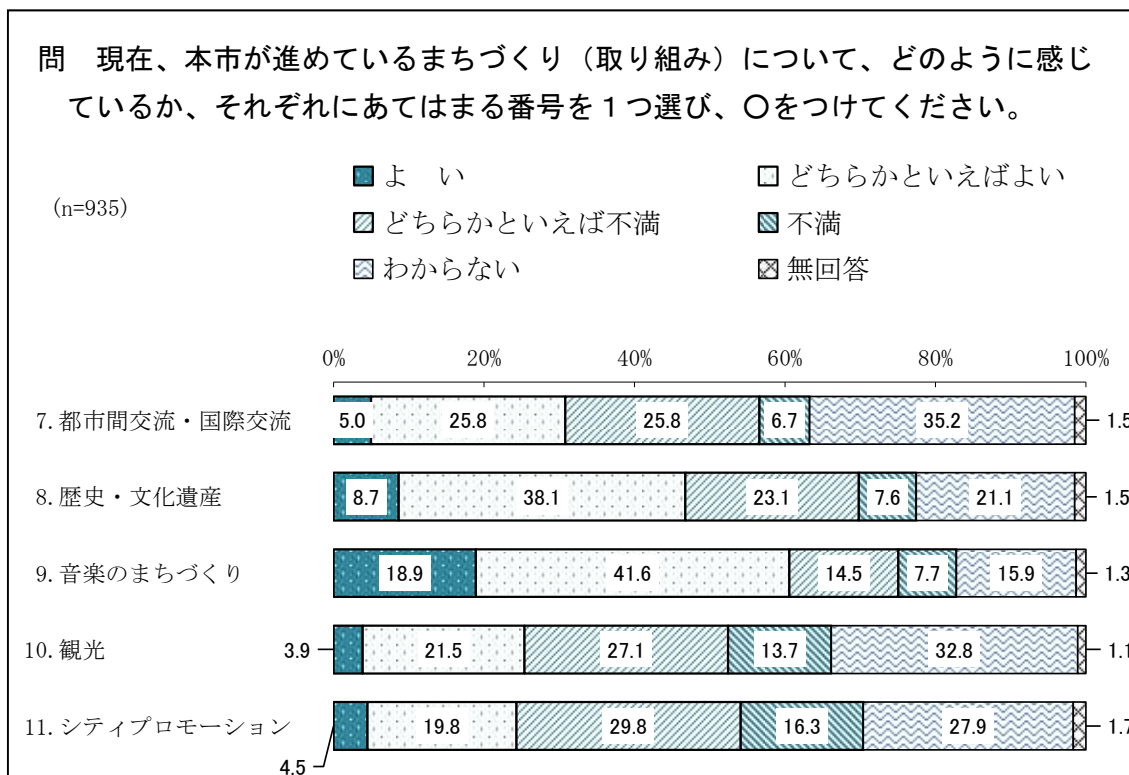


表2-7 産業・仕事の未来への満足度<性別、年代別平均得点の上位3つ>

	男性	女性
1位	産業創出・企業誘致 (68.9点)	特産品ブランド化 (71.6点)
2位	特産品ブランド化 (68.4点)	産業創出・企業誘致 (69.8点)
3位	地域産業 (68.4点)	地域産業 (69.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品ブランド化 (81.4点)	特産品ブランド化 (77.0点)	特産品ブランド化 (72.6点)	特産品ブランド化 (69.8点)	特産品ブランド化 (70.1点)	地域産業 (68.9点)	産業創出・企業誘致 (74.3点)
2位	地域産業 (80.0点)	産業創出・企業誘致 (73.9点)	産業創出・企業誘致 (68.2点)	産業創出・企業誘致 (66.1点)	産業創出・企業誘致 (68.2点)	産業創出・企業誘致 (68.5点)	地域産業 (72.8点)
3位	農林業 (77.5点)	農林業 (73.2点)	地域産業 (66.7点) 起業支援 (66.7点)	地域産業 (66.0点)	地域産業 (67.5点)	起業支援 (66.9点)	起業支援 (71.1点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）
への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（60.5%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（46.8%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.1%）となっています。

性別、年代別においては、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっています。

「音楽都市宣言」から12年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催を通じた鑑賞機会の提供や、東京藝術大学との連携(2016～)による人材育成事業など多様な取り組みにより市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が77.3点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（63.6点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-8参照）

図 2-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

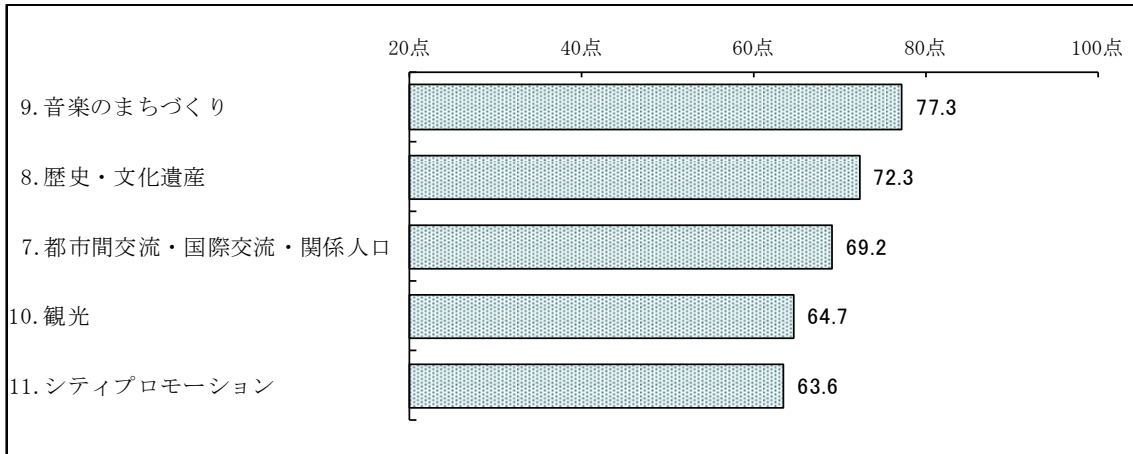
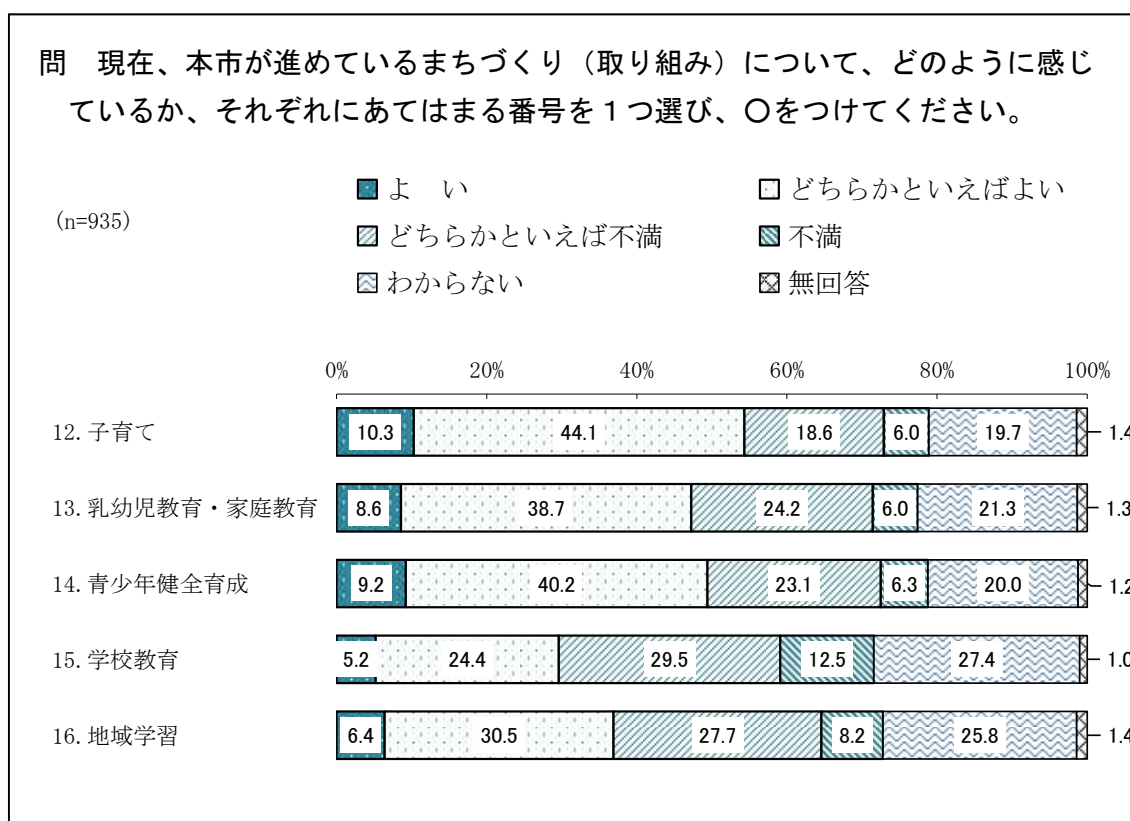


表 2-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (76.3点)	音楽のまちづくり (78.0点)
2位	歴史・文化遺産 (71.8点)	歴史・文化遺産 (72.9点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.7点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	音楽のまちづくり (83.8点)	音楽のまちづくり (81.8点)	音楽のまちづくり (74.9点)	音楽のまちづくり (75.6点)	音楽のまちづくり (78.0点)	音楽のまちづくり (74.0点)	音楽のまちづくり (81.2点)
2位	歴史・文化遺産 (82.7点)	歴史・文化遺産 (79.3点)	歴史・文化遺産 (72.8点)	歴史・文化遺産 (71.4点)	歴史・文化遺産 (73.1点)	歴史・文化遺産 (70.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (70.8点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (80.0点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (74.0点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (66.3点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.2点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.5点)	歴史・文化遺産 (70.3点)

③ 学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（54.4%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（49.4%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『15. 学校教育』（42.0%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が 74.9 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（66.2 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-9 参照）

図 2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

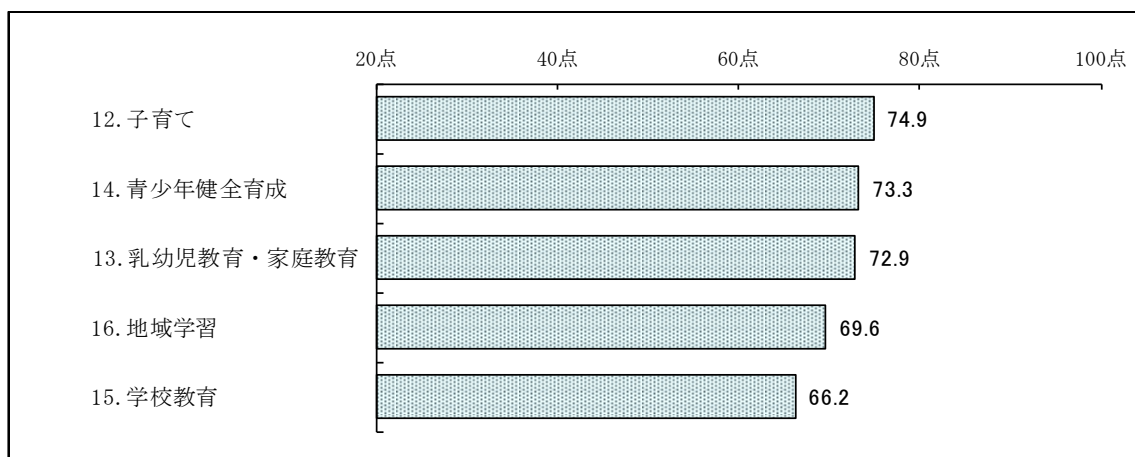


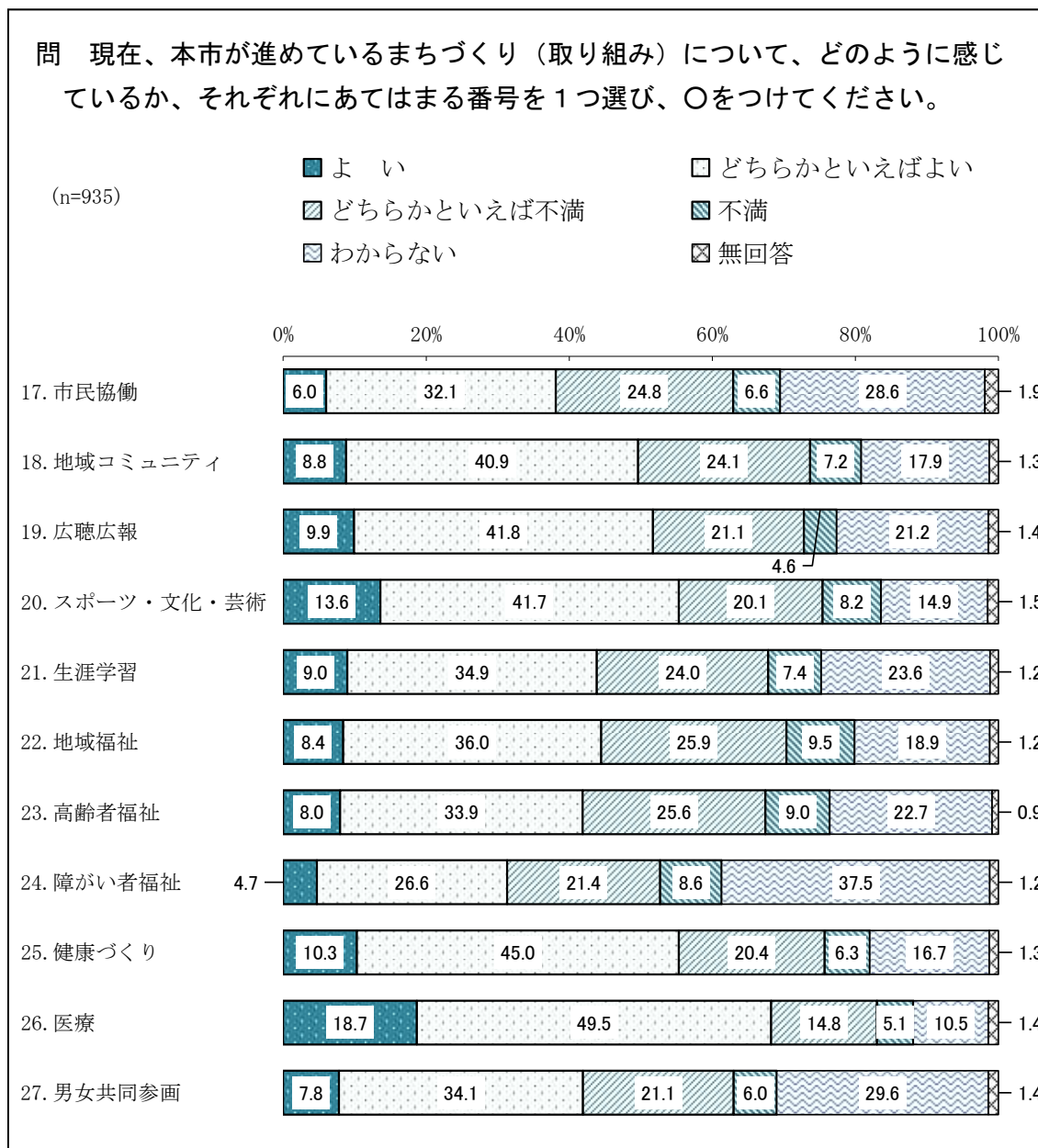
表 2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	子育て (74.1点)	子育て (75.3点)
2位	青少年健全育成 (72.9点)	青少年健全育成 (73.4点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)	乳幼児教育・家庭教育 (73.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	乳幼児教育・家庭教育 (81.8点)	青少年健全育成 (77.6点)	青少年健全育成 (74.9点)	子育て (73.7点)	子育て (74.6点)	子育て (73.1点)	子育て (78.4点)
2位	子育て (78.6点)	子育て (75.5点)	子育て (73.0点)	青少年健全育成 (71.3点)	青少年健全育成 (73.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (70.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (76.6点)
3位	青少年健全育成 (78.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (75.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.0点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)	青少年健全育成 (69.7点)	青少年健全育成 (75.2点)

④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（68.2%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（55.3%）と『25. 健康づくり』（55.3%）が同率で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（35.4%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 78.6 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（69.0 点）でした。

中でも『26. 医療』に関しては、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査」、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

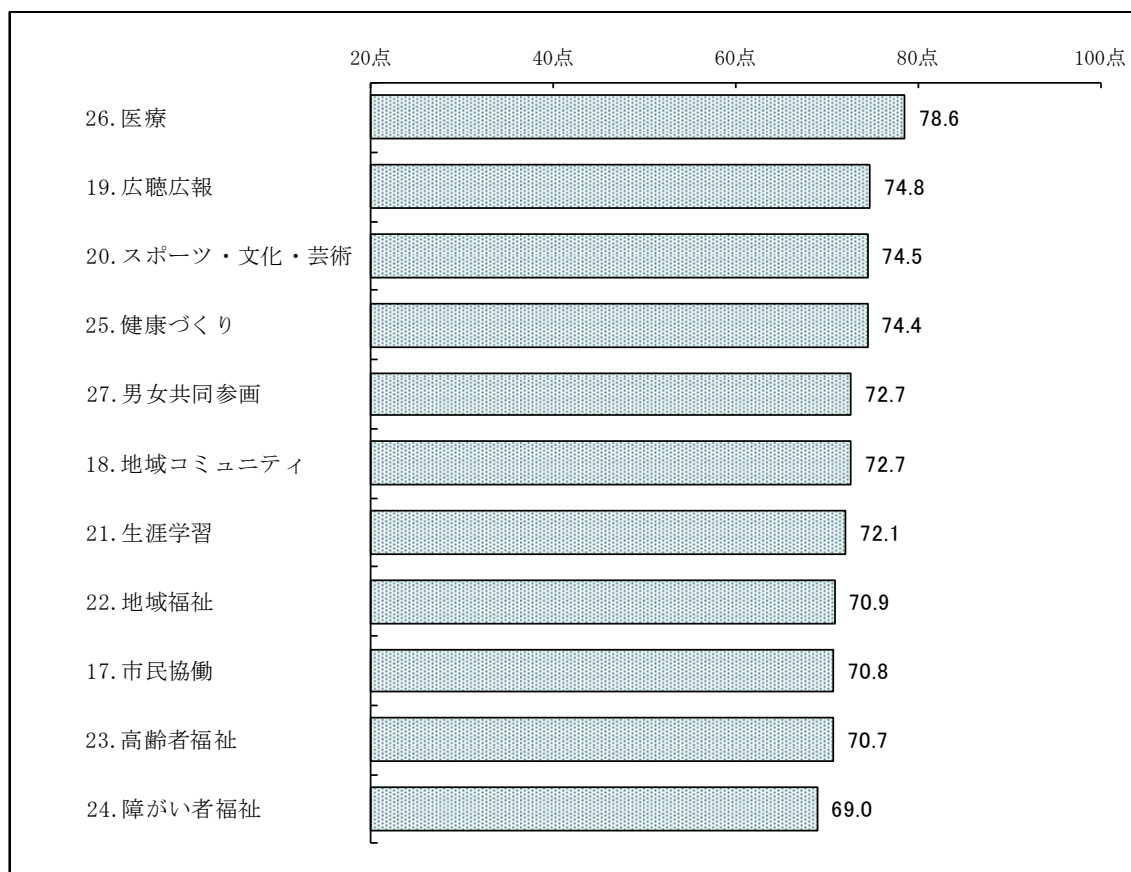


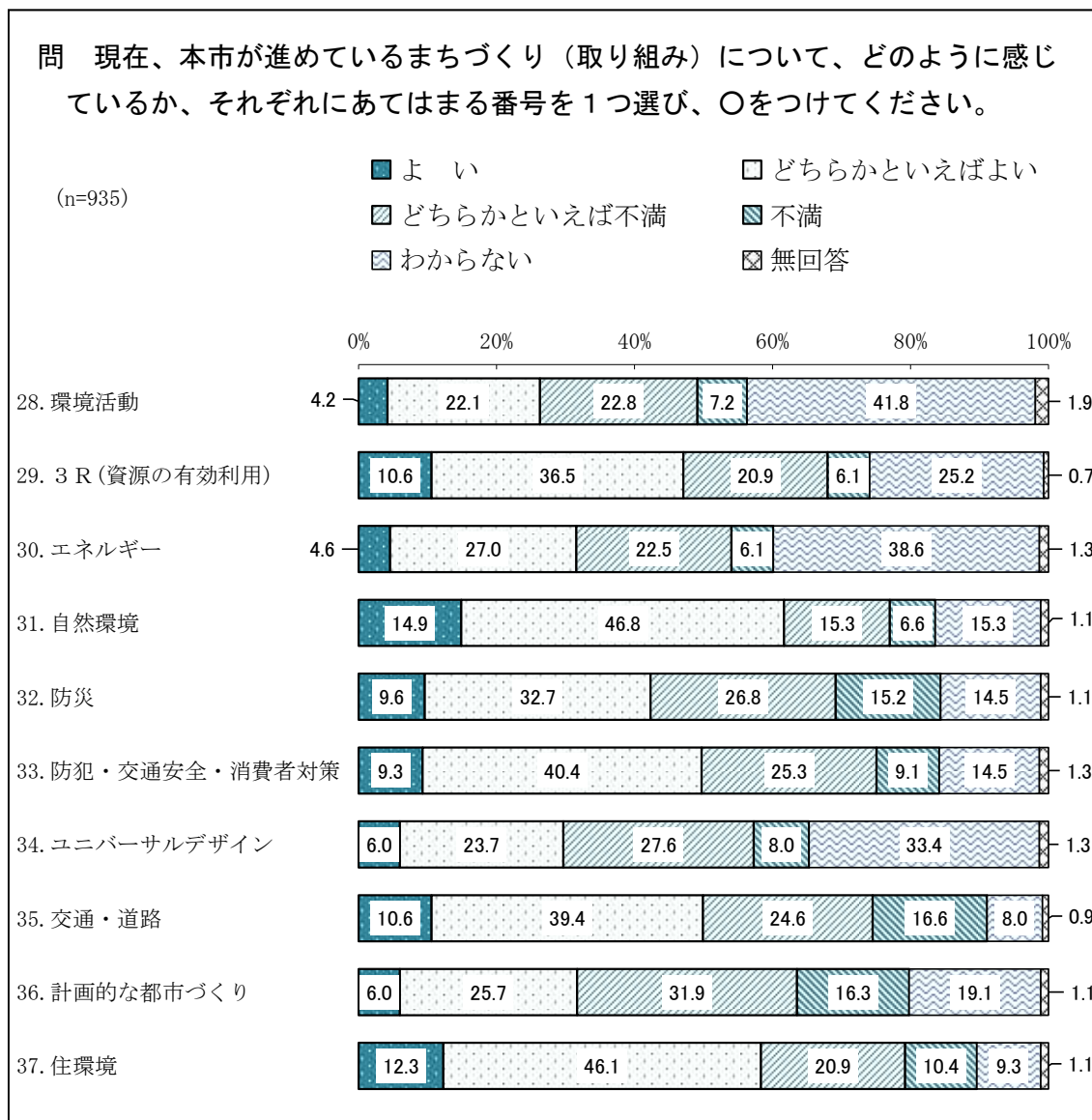
表 2 - 1 0 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (78.9点)	医療 (78.2点)
2位	健康づくり (73.9点)	広聴広報 (75.5点)
3位	広聴広報 (73.8点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	医療 (84.7点)	医療 (82.5点)	医療 (79.6点)	医療 (78.3点)	医療 (78.0点)	医療 (75.0点)	医療 (80.3点)
2位	広聴広報 (84.0点)	広聴広報 (79.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.7点)	広聴広報 (73.8点)	健康づくり (74.8点)	健康づくり (73.0点)	広聴広報 (78.8点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (82.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (78.2点)	広聴広報 (74.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.4点)	広聴広報 (73.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (71.4点)	健康づくり (77.8点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（61.7%）、『37. 住環境』（58.4%）、『35. 交通・道路』（50.0%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『36. 計画的な都市づくり』（48.2%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました。（図2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が76.7点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（65.4点）でした。

『32. 防災』に関しては、前年度調査に比べて満足度の順位が下がり、重要度の順位が上がっています。令和元年東日本台風など、近年発生している自然災害の影響により、防災に関する意識が高まっていると考えられます。

『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均より高いものの、前年度と比べ順位は下がっていることから、セーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-11 参照）

図2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

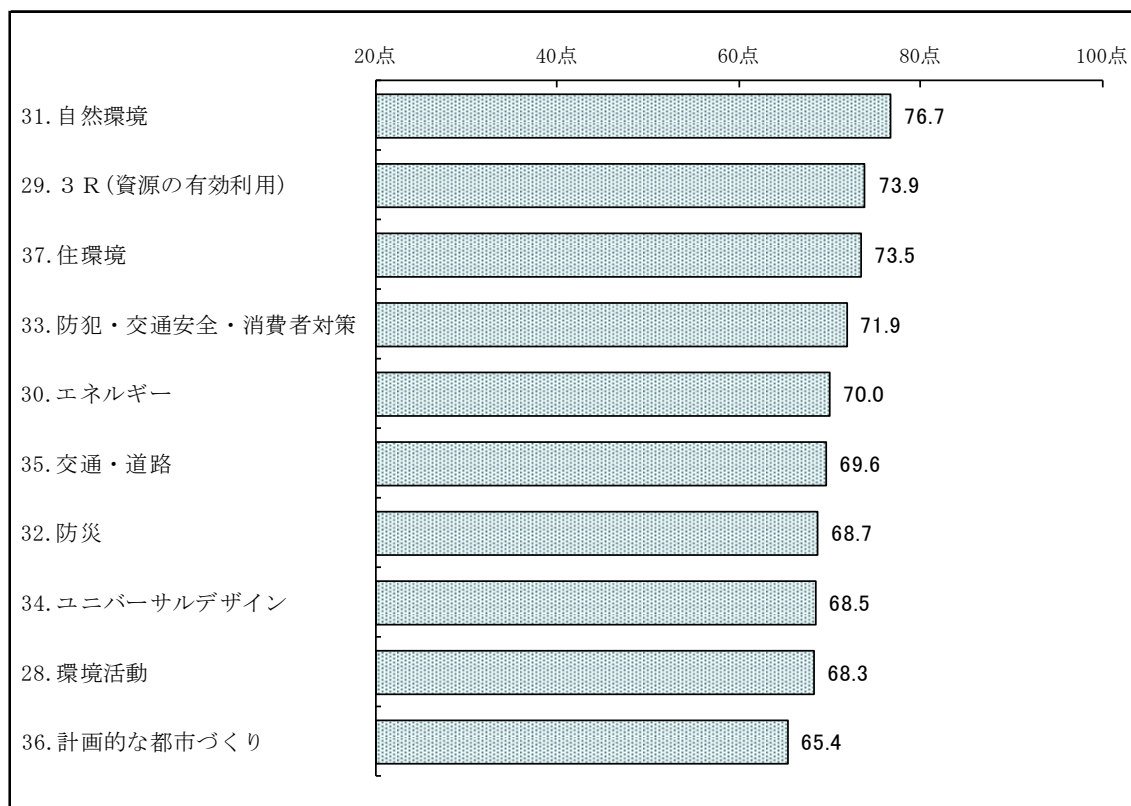
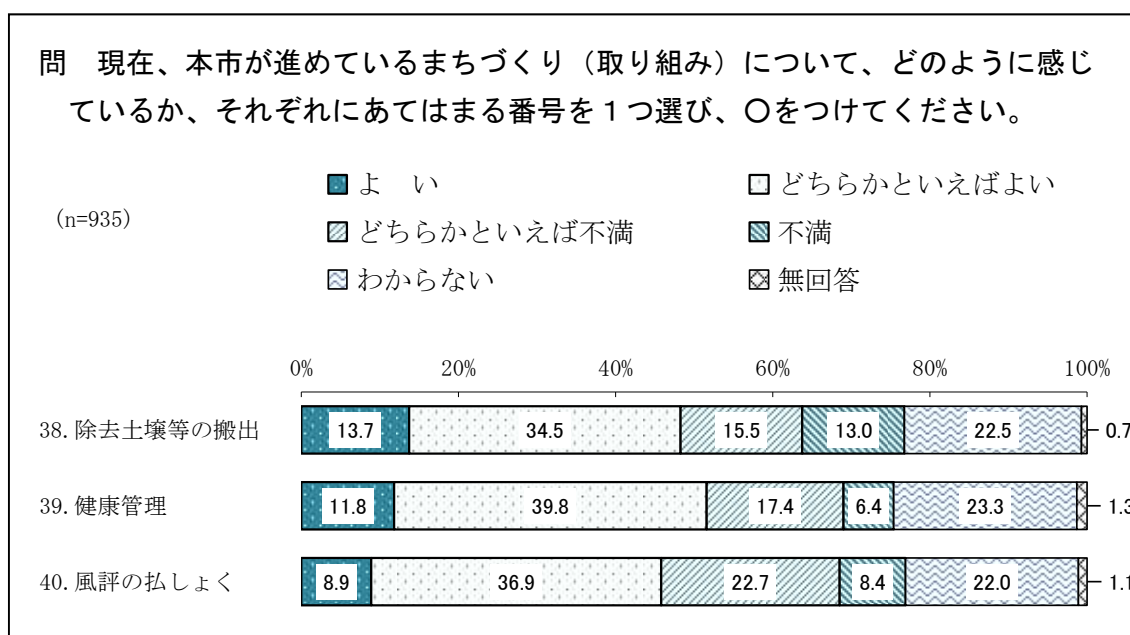


表2-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	自然環境 (75.3点)	自然環境 (77.9点)
2位	住環境 (72.9点)	3R(資源の有効利用) (74.8点)
3位	3R(資源の有効利用) (72.6点)	住環境 (73.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	交通・道路 (85.3点)	自然環境 (81.1点)	自然環境 (78.8点)	自然環境 (77.9点)	自然環境 (75.8点)	自然環境 (73.2点)	3R(資源の有効利用) (76.3点)
2位	自然環境 (85.0点)	住環境 (79.4点)	住環境 (74.3点)	住環境 (74.2点)	3R(資源の有効利用) (73.8点)	3R(資源の有効利用) (72.6点)	自然環境 (75.9点)
3位	住環境 (82.5点)	3R(資源の有効利用) (77.3点)	3R(資源の有効利用) (72.9点)	3R(資源の有効利用) (72.0点)	住環境 (72.8点)	防犯・交通安全・消費者対策 (70.8点)	住環境 (74.7点)

⑥ 横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『健康管理』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『39. 健康管理』（51.6％）です。東日本大震災から約9年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等につながってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（31.1％）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が 75.1 点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『40. 風評の払しょく』（72.0 点）でした。郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-12 参照）

図 2-7 横断的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

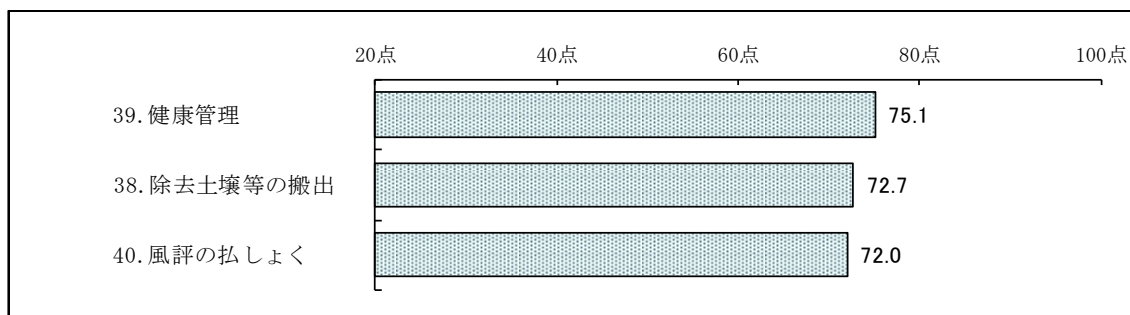


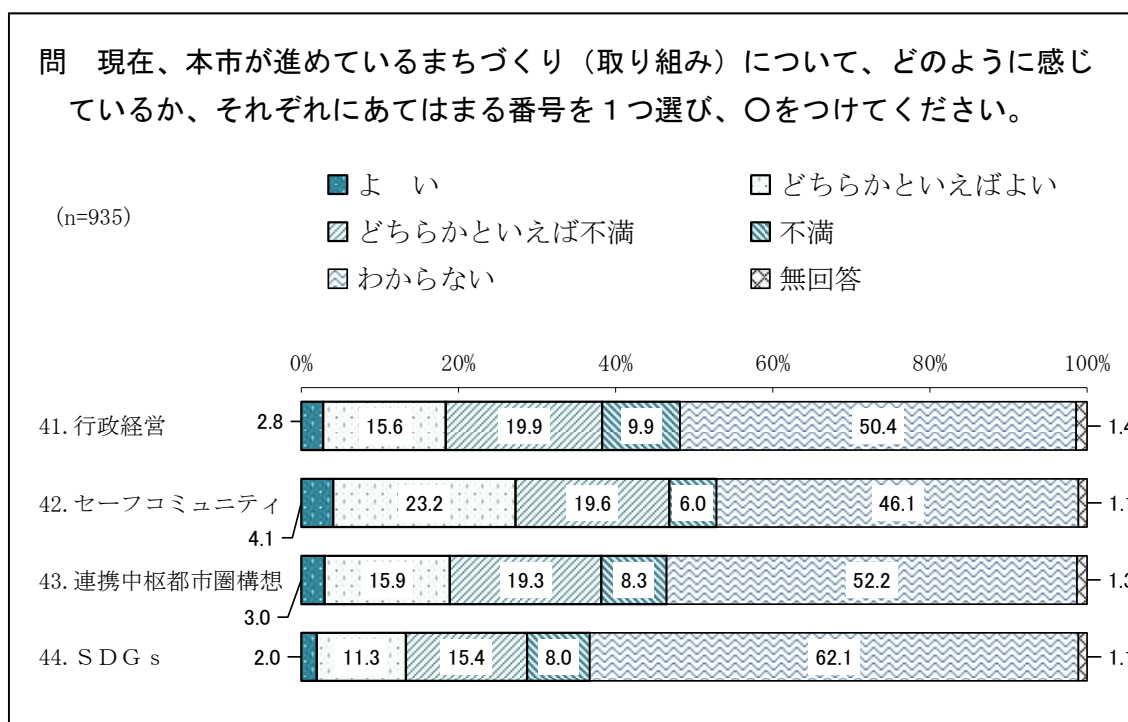
表 2-12 横断的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	健康管理 (73.9点)	健康管理 (75.8点)
2位	除去土壌等の 搬出 (72.1点)	除去土壌等の 搬出 (73.1点)
3位	風評の払しょく (71.0点)	風評の払しょく (72.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	健康管理 (83.3点)	健康管理 (76.2点)	風評の払しょく (75.3点)	健康管理 (76.6点)	除去土壌等の 搬出 (73.6点)	健康管理 (71.8点)	健康管理 (77.1点)
2位	除去土壌等の 搬出 (80.0点)	風評の払しょく (75.4点)	健康管理 (75.1点)	除去土壌等の 搬出 (73.5点)	健康管理 (73.5点)	除去土壌等の 搬出 (71.6点)	除去土壌等の 搬出 (73.1点)
3位	風評の払しょく (76.7点)	除去土壌等の 搬出 (73.0点)	除去土壌等の 搬出 (71.3点)	風評の払しょく (73.4点)	風評の払しょく (70.9点)	風評の払しょく (68.7点)	風評の払しょく (70.9点)

⑦基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『セーフコミュニティ』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. セーフコミュニティ』（27.3%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（29.8%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が5割前後を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

セーフコミュニティ、連携中枢都市圏構想、SDGsについては、本市が近年取り組んでいる施策ですが、実施時期が早いほど「わからない」の割合が少なくなっています。そのため、具体的な事業推進により市民の認知度を高めることが重要と思われます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-8 参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が69.6点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『44. SDGs』（64.0点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-13 参照）

図 2 - 8 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

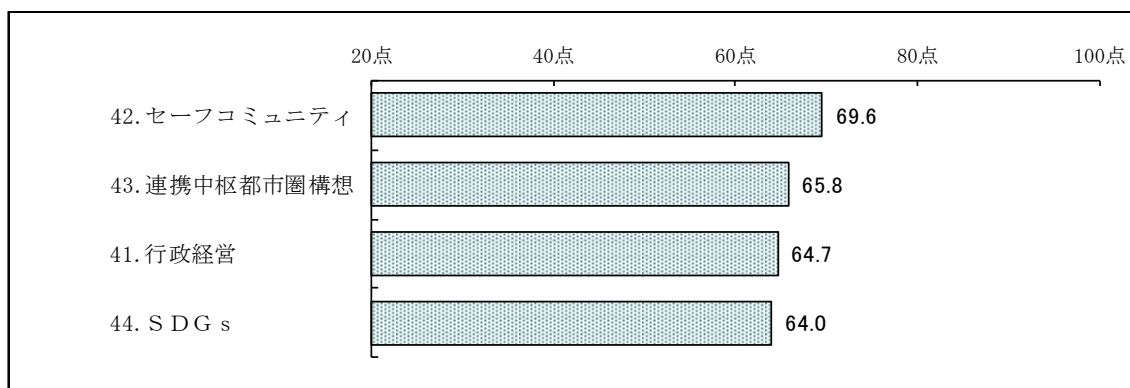


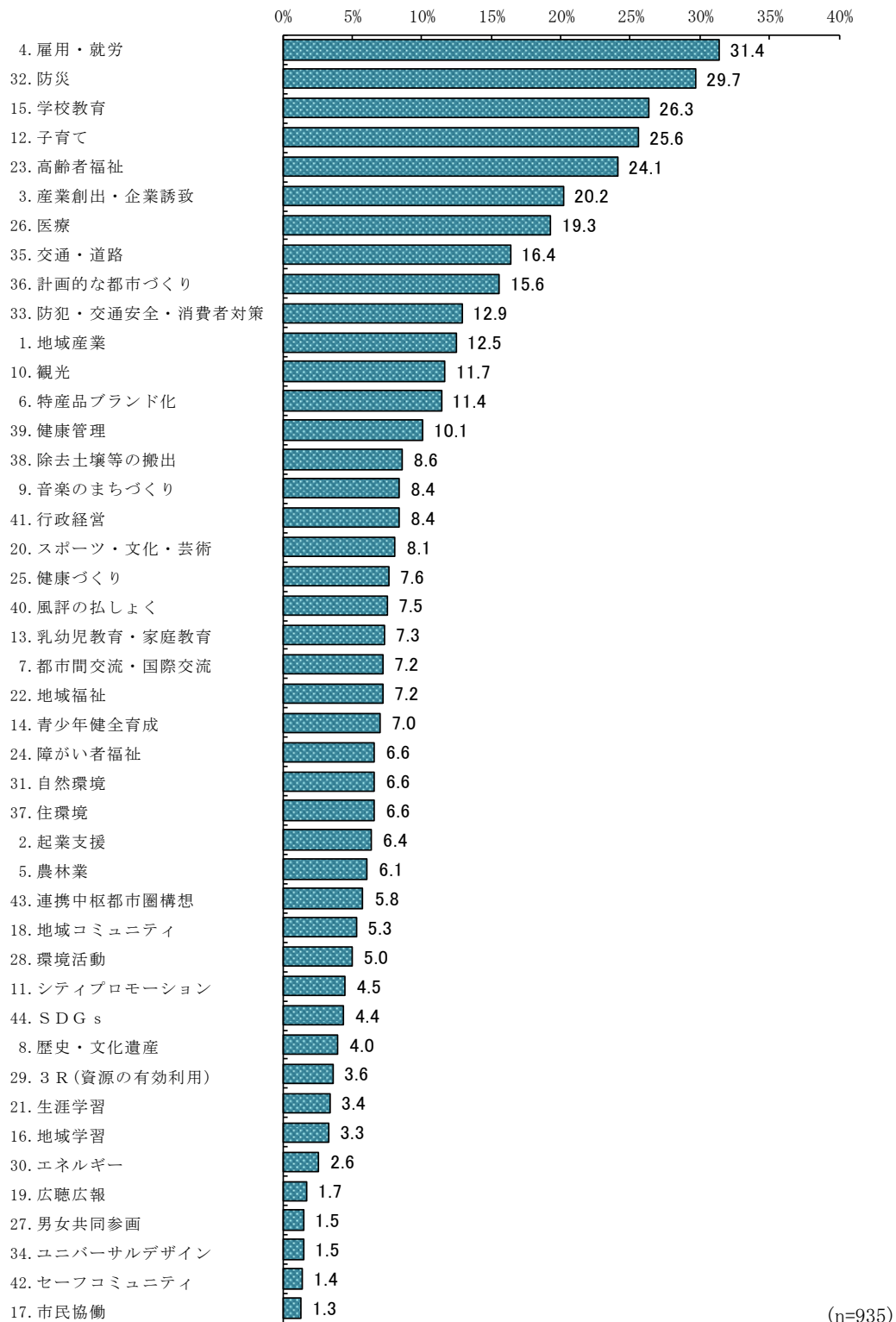
表 2 - 1 3 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位 3 つ〉

	男性	女性
1位	セーフ コミュニティ (70.0点)	セーフ コミュニティ (68.8点)
2位	連携中枢 都市圏構想 (65.7点)	連携中枢 都市圏構想 (65.7点)
3位	行政経営 (65.0点)	SDGs (64.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	セーフ コミュニティ (80.0点)	セーフ コミュニティ (73.6点)	セーフ コミュニティ (68.8点)	セーフ コミュニティ (69.6点)	セーフ コミュニティ (69.2点)	セーフ コミュニティ (68.5点)	セーフ コミュニティ (68.3点)
2位	行政経営 (76.7点)	連携中枢 都市圏構想 (71.0点)	連携中枢 都市圏構想 (63.8点)	連携中枢 都市圏構想 (67.0点)	連携中枢 都市圏構想 (64.5点)	行政経営 (65.6点)	行政経営 (68.1点)
3位	SDGs (75.0点)	行政経営 (69.4点)	SDGs (61.4点)	SDGs (65.1点)	SDGs (63.3点)	連携中枢 都市圏構想 (63.4点)	連携中枢 都市圏構想 (67.6点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取り組み) について、特に重要と思われるものの番号を1~44から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

『4. 雇用・就労』(31.4%)の割合が最も高くなっています。以下、『32. 防災』(29.7%)、『15. 学校教育』(26.3%)、『12. 子育て』(25.6%)、『23. 高齢者福祉』(24.1%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました。(表2-14参照)

表2-14 これからの取組についての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	雇用・就労 (33.7%)	防災 (30.2%)
2位	防災 (29.9%)	雇用・就労 (30.0%)
3位	子育て (26.3%)	学校教育 (28.0%)
4位	産業創出・ 企業誘致 (25.8%)	高齢者福祉 (26.0%)
5位	学校教育 (24.6%)	子育て (25.2%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	学校教育 (60.0%)	雇用・就労 (39.5%)	防災 (39.2%)	防災 (37.1%)	雇用・就労 (35.5%)	雇用・就労 (32.5%)	高齢者福祉 (32.2%)
2位	防災 (35.0%)	子育て (39.5%)	雇用・就労 (37.5%)	雇用・就労 (36.5%)	防災 (35.5%)	高齢者福祉 (29.9%)	産業創出・ 企業誘致 (24.1%)
3位	子育て (30.0%)	防災 (25.6%)	子育て (32.5%)	学校教育 (36.5%)	高齢者福祉 (26.3%)	防災 (25.9%)	学校教育 (19.5%)
4位	スポーツ・ 文化・芸術 (30.0%)	学校教育 (23.3%)	学校教育 (25.0%)	子育て (28.2%)	学校教育 (24.3%)	子育て (25.4%)	健康管理 (19.0%)
5位	雇用・就労 (25.0%)	産業創出・ 企業誘致 (16.3%) 観光 (16.3%) 医療 (16.3%)	医療 (23.3%)	高齢者福祉 (24.7%)	産業創出・ 企業誘致 (23.0%)	学校教育 (24.4%)	防災 (18.4%)